

のだみらいを代表しまして、請願第1号土曜授業の中止を求める請願に賛成の立場で討論いたします。

まず、土曜授業を導入した背景ですが、2010年度の文部科学省全国学力・学習状況調査において、野田市の小・中学生の学力が低く、学力向上が大きな課題であることが明らかになり、2013年度と同調査でも、中学生を中心に成績が伸び悩み、市内の地域格差や学力の二極化が顕著に見られる結果となった中で、学力向上に向けた改革として浮上したのが、土曜授業の導入であり、その状況から野田市においては2014年から導入が開始されてきました。

それから10年が経過し、社会の中では、仕事の効率化が求められ、働き方改革やワークライフバランスを進める流れが主流になっており、長時間労働や残業によって業績を上げるのではなく、より短い業務時間でより高い付加価値を生み出すことができるような企業努力が求められております。

その一方で、子供の世界はどうでしょうか。

学校での授業をより効率化し、より短い時間でより高い学力を身につけられるようにする必要もあるはずです。

学力が下がったら授業時間を増やせというような理論は、業績が下がったら労働時間を増やせという理論と変わらないのではないのでしょうか。

そして、学校の現場においても、社会の要求は高くなり続けております。

新たな仕事が増え続け、教育のIT化、経済教育の導入、人権教育、また、新たなカリキュラムへの対応や行事への参加など、授業後に対応していかなければならない業務が山積しています。

そうした中で、土曜に授業があるということは、さらに教員への負担が増すことにつながり、教員不足が深刻な現代において、この土曜授業がある限り、野田市はさらに深刻な教員不足につながるのではないのでしょうか。

開始から10年が経過し、導入当時と目的が変わる中での継続は、野田市が目指していた土曜事業の役割を果たすことなく、終わりを迎えたと判断すべき時期が来ているのではないのでしょうか。

行政運営において、一度始めたことを変えることや、辞めることが難しいのは重々承知していますが、働き方改革が進められる今だからこそ、これまでの常識や良識にとらわれず、新たな学習機会の構築に、今こそ方向転換をする必要があると考えます。

この現代において、求められている教育活動は、量より質、そして、子供たち、教員がウェルビーイングを実感できる環境をつくることこそが重要なはずです。

私たち大人の都合ではなく、何よりも子供たちの未来を第一に考え、学習環境や教員の働く環境を整えていくことが強く求められております。

以上のことから、請願第1号土曜授業の中止を求める請願に賛成といたしま

